

授業科目名	演劇史	担当教員	内野 儀
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 2 クォーター		
講義内容	日本並びに世界の演劇史を、劇場の歴史を中心にして概観する。ギリシャ・ローマ時代から始め、ルネッサンスから近代・現代にいたるまでを、日本独自の能舞台や歌舞伎劇場の発展や近代日本における劇場についても言及しながら、まずは辿ってみる。ひきつづき、現代の欧米や日本における劇場という制度やそこで行われている演劇の現在についても考える。		
到達目標	演劇が行われる空間、そこが劇場となる。人々が集まり、そこで何かが行われる場所／空間を広い意味での劇場と捉え、西洋と日本における広い意味での劇場という場所／空間の歴史を学ぶことで、日本と世界の演劇史への視座を獲得し、劇場という場所／空間が現在、果たしうる役割を考え、説明できるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 劇場とは何か？—日本の伝統、西洋の伝統</li> <li>2 ギリシャ・ローマ時代—ギリシャ悲劇の普遍性</li> <li>3 ルネッサンスの劇場—バロックから古典時代へ</li> <li>4 西洋近代の劇場（1）—プロセニウム劇場の誕生</li> <li>5 西洋近代の劇場（2）—舞台機構の発展と演出家の登場</li> <li>6 日本の伝統劇場—能舞台と歌舞伎劇場</li> <li>7 近代日本の劇場—新劇の冒険</li> <li>8 現代西洋の劇場—ヨーロッパの演劇と劇場</li> <li>9 現代日本の劇場（1）—アンガラ・小劇場演劇の革新</li> <li>10 現代日本の劇場（2）—ミュージカル劇場と公共劇場</li> <li>11 現代世界演劇の展開—ドイツの公立劇場とドラマトゥルクの仕事を中心に</li> <li>12 現代日本演劇の展開—21世紀演劇のビジョン</li> </ol>		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に興味がある時代の演劇とそれが行われていた劇場について、どのような演劇が行われていたのか、その機構や役割を調べておく。</li> <li>・授業で学修したことに関するレポートを作成し、提出すること。</li> </ul>		
テキスト	清水裕之『劇場の構図』SD選書 195（鹿島出版会、1985年）		
参考文献	<p>参考文献参考書（文庫本で可。翻訳戯曲については誰の訳でもよい）</p> <p>ソフォクレス『オイディプス王』、ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』</p> <p>アントン・チェーホフ『かもめ』、テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』、泉鏡花『天守物語』、三島由紀夫『サド公爵夫人』、野田秀樹『野獣降臨』</p>		
成績評価の基準	提出されたレポートで、到達目標がどこまで達成されたかを評価する。		
履修上の注意 履修要件			

実践的教育	該当しない。
備考欄	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間が許せば映像資料を見ることも考えるが、むずかしい場合は学修前の視聴を義務化することも考える。</li><li>・履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。</li></ul>